

# 「危険な場所分かった」

## 大朝小児童 大学生と防災マップ作り



江の川沿いで、広島工業大の学生たちから危険場所の説明を受ける大朝小の児童

北広島町の大朝小児童が16日、大雨などの際に危険になる場所をまとめた学校周辺のハザードマップ作りをした。防災や減災を学ぶ

広島工業大(広島市佐伯区)の学生と地域を巡って注意点を確認した。

4、5年生12人と学生17人が4班に分かれ、学校近

くを流れる江の川沿いの県道周辺や、避難所近くを歩いた。児童は、学生から川幅が狭い場所は、大雨の時に水があふれやすい」などの助言を受け、メモを取ったり、写真を撮ったりした。学校に戻った後、浸水の恐れがある場所や、街灯が少ない道路について、地図に付箋を貼り付けた。

5年山田陽咲さん(11)は「学校や家の近くの危な

い場所が分かった。気を付けて避難したい」と話した。

ハザードマップ作りは、同大環境学部建築デザイン学科の研究室が、地域の防災力を高めてもらおうと提案した。同小の卒業生がこの日の作業に参加した同大4年佐々岡美空さんの2人は「子どもが災害時に危険な場所を学ぶことで、保護者や地域にも防災意識が広がってほしい」と願っていた。

(山田太一)